

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 長野県 】

学校名【 長野県屋代高等学校附属中学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	2学年・80名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (特別活動・道徳)</p> <p>② 行事名 (福祉体験)</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	パラリンピックについて学習することを通して、誰もが暮らしやすい社会をつくるために必要なことを考える
5 取組内容	<p>①「ボッチャ体験」</p> <p style="text-align: right;">(11月18日福祉体験)</p> <p>千曲市スポーツ振興課の方2名を講師として、パラリンピック競技であるボッチャを実際に体験した。パラリンピックで競技の様子を見たり、体育の授業で行ったりしたことのあるボッチャであったが、障がいの有無に関わらず、誰でも楽しめるスポーツであることを学んだ。また、ボッチャなどのスポーツに限らず、どんなことでも、「障がいがあるからできない」ではなく、みんなができるためにはどうしたらよいか、みんなで楽しめる工夫を考えることが大切だということが分かった。生徒から</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

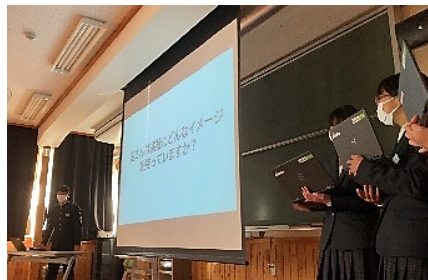
は「ボッチャは障がいがあってもなくても楽しくできるスポーツだと思う」「ルールをさらに工夫して考えてみたい」「パラリンピック選手のすごさが分かった」などの声が上がった。



②「福祉について学ぼう！」

(11月19日福祉体験)

本校では、総合的な学習の時間で各自テーマをもち、探究活動を行っているが、その中で「福祉」について調べている生徒4名が、それぞれの調べている観点から、「障がい福祉」「子育て支援・子ども食堂」「バリアフリー」について発表した。「障がい福祉」については、目に見える障がいと見えない障がいがあること、どんな手助けができるのか、障害者差別解消法など法律の知識も交え発表を行った。「子育て支援・子ども食堂」については、切れ目のない支援を行っていく必要性や、子ども食堂に行った感想を発表した。また、生徒は10月に北陸研修旅行として富山と金沢に行っており、「バリアフリー」については、金沢城のバリアフリー化にも触れ、ユニバーサルデザインについて紹介した。発表を聞いた生徒からは、自分たちも行った金沢城の写真を見て「たしかにバリアフリーになっていたね」「私が見学した21世紀美術館も、車いすの貸し出しがあったり、段差がなかったりと、配慮がされていた」など、北陸研修旅行の様子を思い返す姿が見られた。また、友人たちの発表であるため、興味をもって話を聞く様子が見られた。



そんな時はこのマークです！！



ヘルプマーク

手助けや配慮が必要な方のマーク

見かけたら、声をかけてみてください

お手伝いできることがあるかもしれません

話しかけるときは、

目線を合わせて、お互いに歩み寄ることが大切です

こんなときは…

○皆さんにもできること

・車いすの利用者が階段で困っていたら複数の人でサポートする

・車いすの利用者などが、手の届かない陳列棚の商品を代わりにとって手渡す

・段差を乗り越える手伝いをする



③「パラリンピック選手を迎えての講演会」

(11月19日福祉体験)

「あすチャレ! ジュニアアカデミー」よりパラ・パワーリフティング選手である馬島誠さんを講師としてお招きし、講演会を行った。車いすでの生活や様々な障がいをもつ人の感じ方・見方、馬島さんが大切にしている「顔晴る」「感謝」「他喜力」の3つについて経験を交えてお話しいただいた。生徒は「大丈夫ですか」と声をかけるよりも「何かお手伝いしましょうか」と声をかけた方が、困っている人は答えやすい、ということや、聴覚に頼らず相手に物事を伝えることの難しさなどを学んだ。講演後には、生徒から以下の感想が挙げられた。

～生徒の感想～

- ・障がいをもった人や、車いすに乗っている人は、できないことがたくさんあると思っていたが、自力で段差をこえることができることや、たくさんのスポーツに挑戦できることを知って驚いた。「できないから」と諦めるのではなく、できることを見つけることが大切なのだと思う。
- ・事故にあって普通なら何もしたくないと思ってしまいそうな状況からパラリンピックに出て銀メダルを取れる馬島さんはすごい。それほどの行動力の源は「他喜力」なのかなと感じて、僕も周りの友人や家族に感謝して、辛いときには大切な人の喜ぶ姿を頭に思い浮かべて、頑張っていこうと思った。



講演会の様子



言葉を使わず、相手に物事を伝え



なかなかうまく伝わらない



銀メダルを見せてもら

④「自分たちの住んでいる地域について考えよう」

(11月24日 道徳)

国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE (アイムポッシブル)」より「公平について考えよう」という題材を使用し、自分の

まちでの「公平」を
考えてみよう。

実際の社会の中での「公平」について
考えよう。



まちの公平について考えた。利用している駅や通学路を思い返してみたり、Google mapなどで改めて道をたどってみたりすると、点字ブロックや信号の音声案内、エレベーターやピクトグラムなどがあることが分かった。同時に、点字ブロックが欠けていたり上に物が置かれていたりする場面を見たことがあるなど、改善点も挙げられた。

～生徒の感想より～

- 公平について考えるときは、相手の立場に立って考えて、個々の状況を踏まえることが大切で、工夫するときは一人ひとりの違いを理解して工夫することが大切だと思った。
- 福祉は障がい者や高齢の方の生活をよりよくするものだと思っていたけれど、すべての人の幸せを追求したり、困りごとを解決したりするものだと思って、自分は何に困っていて、何が必要かを考えようと思った。
- 自分自身は、あまり気にしていなかったけれど、考えてみると思った以上に設備が整っていた。また、公平についてはいろいろな立場の人がいるので、自分の偏見で考えずにたくさんのパターンを頭の中で考えられるようにしていきたいと思った。

6 主な成果

○ボッチャ体験を通して、パラリンピック競技であるボッチャは特別なスポーツではなく、誰もが楽しめるスポーツであることを学んだ。

○パラリンピック選手の講演会やボッチャ体験を通して、障がいの有無に関係なく、同じ社会で生きる一人である、ということを知り、共生していくことについての視点を広げることができた。

～生徒の感想より～

- 福祉体験を通して、障がいの有無に関係なく、みんなで楽しむための工夫を考えたり、困っている人への声かけをしたりする

	<p>ことを大切にして、実際に行動にうつしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がいがあってもなくても幸せで便利な社会をつくるのが大切だと思った。そのために一人一人に合わせた工夫が必要だし、その状況を理解することが重要だと考えた。障がいがあっても「できない」ではなく、「どのような工夫をすればできるのか」という考え方を大切にしていきたい。
7実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> パラリンピックに関係する方にお越しいただき、直接お話を聞く機会を設けた。長野県出身の選手であり、銀メダルを実際に見せてもらったことも、選手を身近に感じたり、興味をもって聞いたりするきっかけになった。 千曲市スポーツ振興課で行っている、スポーツチャレンジ教室を利用し、ボッチャのルールや用具の説明、ゲームの審判等を行っていただいた。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> 千曲市スポーツ振興課や社会福祉協議会など、地域と連携して行っていくことで、より深い学びにつながっていくのではないかと思われる。
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> 来年度の2学年も福祉教育を進めていくので、パラリンピックについての学習から、福祉施設での職業体験へとつなげていきたい。